

	課題分析	授業改善策
国語	・定期考査から、漢字や文法問題などの知識の定着に大きな差があることが見受けられる。 ・全国学力調査の結果から、話すこと・聞くこと・読むことに関する観点においては、いずれも全国・東京都の平均を上回っていた。一方で、書くことに関する観点においては、全国の平均は上回っているものの、東京都の平均は下回っていた。 ・説得力のある文章を書くことができる生徒が少ない。 ・話し合い活動において、他者の意見を深掘りすることが難しい。	・漢字の小テストや文法問題の演習の機会を増やし、インプットとアウトプットを習慣化させる。また、文法問題に関して授業中や補充教室等で質問できる場を設ける。 ・書く力を育成するため、毎単元の終わりにテーマに対する作文を書かせる。都立高校入試の二百字作文も意識し、筆者の主張や自身の経験を入れた作文の書き方を身に付けさせる。 ・書いた文章を互いに読み合い評価したり、説得力がある作文を全体に紹介したりして、自身の作文をより良いものにしようとする気持ちや力を育む。 ・話し合い活動の前に、効果的な話し合いの例を提示したり、机間指導でどのように質問などをしたら良いか、声を掛けたりして質を高められるようにする。
社会	・授業に意欲的に取り組む生徒が多いが、問いを立てる力の不足が見られる。与えられた指示には乗ってくるが、「なぜこうなるのだろう？」と自発的に疑問を深め、調べようとする姿勢が薄い。また、自分の考えを伝える際に、「～だから、～と考える」という「根拠＋主張」の型で文章や言葉を組み立てられない。 ・発言が多いものの、発言内容は「感想」や「直感」が多く、既習の用語や客観的事実に基づいた根拠のある発言になっていない。 ・社会の授業で学んだ見方・考え方を、身近なニュースや地域社会の課題に当てはめて考える視点をもてていない。 ・発言の質を高め、知識を定着させる工夫が必要である。	・「根拠＋主張」で、「～だと思います」で終わらせず、「～と考えます」と根拠を添えて発言させる。 ・歴史や地理の用語を単発で暗記させず、関係性を矢印で結ぶなど工夫したノート作りをする。 ・資料を提示する際、「①何が見えるか（事実）」「②なぜこうなっているか（理由の推測）」「③社会科用語でどう説明できるか（まとめ）」の順で段階的に思考させる。 ・雨温図と農産物出荷額など、必ず「2つの異なる資料を掛け合わせないと解けない問い」を意図的に組み込む。 ・小テストや単元テストなどを実施し、学力の向上を把握する。 ・生徒の直感的な発言に対して教員が「なぜそう思った？」「その根拠はどこにある？」と優しく掘り下げ、根拠を探す癖を付けさせる。 ・興味関心を引き出し、活動に参加したくなる魅力ある授業実践のため、教材研究を行う。 ・「今日学んだ内容は、もし現代の自分たちの生活に当てはめるとどう影響するか？」を振り返りシートの最後に1行書かせる。

数 学	・各学年の1学期の成績では「知識・技能」の観点のAとBを合わせた割合が高く、基本的な計算問題を解く「技能」を持ち合わせている生徒は多い。 ・「思考・判断・表現」の観点になると、学年が上がるごとに正答率が低くなっている傾向がある。 ・全国学力調査の結果は平均正答率が66%で練馬区よりも+4、全国よりも+9高いので、平均学力は高いと言える。	・基礎基本の定着のために引き続き計算練習を数多く行い、定期的に小テストを実施していく。また、定期考査前や夏季休業中に学習教室を実施する。 ・習熟度別少人数授業の特性を生かし、特に基礎クラスでは人数を少なくし丁寧に指導していく。 ・数学は系統的な学習の積み重ねなので、新しい単元に入るときは復習を行い、定着度を確認してから指導していく。
理 科	・定期考査では「知識・技能」に関する問題の正答率が高いのに対し、「思考・判断・表現」に関する思考力を問う問題の正答率が低い。 ・学習する分野によって個人活動やグループ活動など学習形態のバリエーションに偏りがある。 ・授業で学習した内容を身のまわりや将来の生活へとつなげて考えることができる生徒が少ない。	・引き続き、基礎学力定着のための小テストや用語テストを行う。授業の中で実験観察の考察の時間を多くとり、自分の考えを分かりやすく他者に伝える方法を学ぶ機会を設ける。 ・どの学習分野でも、授業計画を綿密に行い、調べ学習などの個人活動や実感観察などのグループ活動をまんべんなく行うようにする。 ・教科書の内容だけでなく、学習内容が実際に使われている身近な例を授業者が提示したり生徒自身が調査したりする授業を取り入れる。
音 楽	・既習事項や音楽的な知識を活用して、自分なりに表現を工夫したり課題を解決したりすることに課題がある。 ・正解を求める傾向があり、自分の感じ方や考えを自由に表現することに抵抗がある。 ・音楽の特徴や表現の工夫について、音楽的な根拠を示して説明する力をさらに育成する必要がある。	・「正解が一つではない音楽活動」を意図的に設定する。 ・「どのように演奏するか」「なぜそのように演奏するか」を生徒自身に考えさせる。 ・鑑賞では「感じたこと→音楽の特徴→そう感じた理由」の順で記述させる。 ・ICTを活用して複数の意見を共有し、他者の考えと比較することで自分の考えを深める。 ・合唱・器楽では、録音した演奏を聴き、課題発見→改善→再演奏というサイクルを取り入れる。
美 術	・スモールステップの学習により、丁寧に学習することができている。制作速度を上げさせたい。 ・忘れ物をする生徒がいる。 ・美的関心と美的意欲をもたせる必要がある。 ・既習学習を基に、自分なりの発想へと進むことができる制作を行わせる必要がある。 ・TP(タイムパフォーマンス)を意識する必要とSNSに対応した色の学習の精査する必要がある。	・授業用具を忘れないように。まとめの時間に次の持ち物と学習内容を説明し、クラスへ次の授業持ち物を記入した用紙を配布し授業前日に教科係からの持ち物連絡を行うことで三重に連絡する。 ・TPのため、色相環の塗る色を補色関係に限定する。将来SNSを作成する場合に備え、紙面とディスプレイの三原色(CMYとRGB)の違いについて理解させ、使いこなせるようにする。

保健体育	・基礎的な動きの習得が不十分な（幼少期からの遊び経験が不足している）ため、ケガをしやすい。 ・基本的な技能の習得に時間がかかる。 ・授業の指示を言葉（耳）だけで理解することが難しい。 ・自分の言葉でわかりやすく相手に伝えることが苦手である。 ・試合において、ルールを意識してプレイしたり、作戦を考えて実践したり、協力してゲームを展開することが苦手である。	・多様な運動を取り入れたり、ケガや事故防止の観点を説明したりすることで、ケガや事故が起きない環境を設定し、安全面の意識を高める。 ・動きのコツやポイントの説明を丁寧に行う。 ・目標、動き方、流れなど、視覚的に理解できるように ICT 機器やホワイトボードを活用する。 ・習熟度別に課題やグループを設定する。 ・ルールやゲームの目的、具体的な戦術例や動き方の例を提示し、イメージしやすいようにする。 ・話し合い、チームで練習する時間を確保する。
技術	・構想図の学習を苦手とする生徒が見られる。完成図を思い描けず、学習が進めない状態になる。立体を脳内で思い描けないため、立体を回転させる等の作図が困難である。 ・学習した基礎的な知識や技術を実技に活用して作業を丁寧に効率よく進める等ができていない様子が見られる。 ・作業工具や道具、工作機械を使用目的に適した選択や使用について判断や知識が不足している。 ・技術科の授業に、学習内容に関連する他教科の学習を応用する意識や能力が不足している。 ・タブレット端末の基本的な操作方法が身に付いていない。課題に対して、操作方法を応用するなどには習熟に差がある。 ・タブレット端末の活用については、検索の利用や AI の活用等についても習熟の差がみられる。 ・授業中の質問をタブレット端末で検索して回答する姿勢がみられる。 ・タブレット端末が全生徒に配布されたため授業内容以外の情報を閲覧している生徒の姿を見ようになった。	・班活動が活発にできる等、学習形態を工夫して、生徒が協力し合い教え合う態度を育てる。 ・実技学習では作業目標・内容・日程等を伝え、作業が目標に沿って効率的に進められない生徒には個別的に指導を行う。 ・安全な作業や学習の充実につながる丁寧な作業の重要性をくり返し指導する。 ・完成の喜び、達成感が味わえるように製作の段階で試行錯誤する生徒に対して、補習による個別指導等を行う。 ・生徒が発問に対して積極的に発言する、自分の考えを表現・発表する姿勢・環境を作る。 ・振り返りのレポート等の提出物チェック、実技テストを実施する。 ・授業中の質問や課題の精選と工夫を行う。 ・ICT 機器やタブレット端末を活用し、視覚的な理解を深めさせ、興味・関心が高まるような動機付けを行う。
家庭	・自分の生活を振り返ったり、考えたりすることが苦手な生徒が多い。 ・発言や挙手する生徒の固定化。 ・積極的に授業に参加しているが、知識の定着に課題がある。 ・被服実習ではミシンや手縫いを苦手とする生徒が多いため、進度に大きな差ができてしまう。	・机間指導を行い、声掛けや助言をしながら生徒の考えを引き出したり、一緒に考えを膨らませたりしていく。 ・周りの生徒と意見交換・共有することで自分の考えに自信をもたせる。机間指導も行い、書いた意見に対して声掛けをしていき、発言しやすい雰囲気を作っていく。 ・苦手な生徒に対しては、基礎基本の定着を図るために個別指導、得意な生徒にはリトルティーチャーとして他の生徒に助言を行いながら、進度に大きな差が出ないようにする。

外国語 (英語)	・全国学力調査の結果に基づいて、本校と全国平均を比較し分析すると、読むこと・書くことに関する多くの観点においては、全国平均を上回っていた。一方、聞くことの思考・判断・表現の観点において、全国平均を下回っていた。今後、「日常的な話題について、目的に応じて必要な情報または概要を聞き取ることができる」力を伸ばしていく必要がある。 ・話すことに関しては、自分の身近なことを話すことができるが、第三者に提案することなどは具体的に話すことが苦手な生徒がいる。 ・単語テストや定期考査では、単語や文を正確に書く力が低い。	・教科書や副教材のリスニング問題を解かせて、英語の音声に触れたり、スクリプトを活用して、さらに詳細を聞き取ったりする機会を授業内で増やしていく。 ・ALT や JTE による教科書の本文に関する QA やペアでの会話に定期的に取り組むことによって、音声によって内容を把握する練習をする機会を増やす。 ・場面設定をして、そのことに沿ったことをペアワークや班で考えて発表する活動を増やしていく。 ・授業で単語テストや基本文テストなどの小テストを行い、書くことの意識を高める。
---------------------	--	--